

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200164		
法人名	合資会社ゴールドサービス		
事業所名	グループホーム長寿の郷真備		
所在地	岡山県倉敷市真備町市場4109		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 15 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自然に囲まれた場所に立地しており、利用者様にとって落ち着ける環境であると考えています。我々のモットーは高齢者の尊厳であり、職員と利用者が馴れ合いにならぬよう言葉遣いには十分注意しながら関わりを持っています。一日の流れはご自分で決めていただき、自分がやりたいことを自由に出来る空間づくりを目指しています。レクリエーションも強制的には行わず、職員は寄り添いながらアドバイスをしたり一緒に楽しんだり、家族同様のお付き合いを心掛けています。「自分の親、又は自分自身が住んでみたい」と思えるような事業所を目指し、一つ一つの問題点が勉強と思って努力しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 9 月 25 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のんびりとした閑静な環境の中、マイペースで無理なく過ごしてもらえるよう職員一同、利用者の気持ちに寄り添いながら毎日のケアに取り組んでいる。「高齢者の尊厳」をモットーにしており、職員と入居者が馴れ合いにならないよう、管理者、主任看護師、ユニットリーダーは言葉遣い、声のトーンまで細やかに指導している。職員は出勤すると一番に入居者と顔を合せて朝の挨拶を交わし、笑顔を届けるとともに些細な変化に気を配り、寄り添う気持ちを忘れないようにしている。管理者は入居者、職員共に、みんなが幸せになるためにどうすればよいかを常に問いかけ、試行錯誤しながら業務改善に取り組んでいる。半年ごとに行われる人事評価(個人面接含む)は職員自身が自己を振り返る機会となり、また入居者の幸せな生活への助けとなるケアの改善進歩に繋がっている。得意分野を活かし、絵が得意なスタッフはホワイトボードに誕生日を迎えた人の似顔絵や敬老の様子をほのぼのとしたタッチで描いて、玄関を入った途端、入居者だけでなく、家族まで心を温かく和ませ、話に花を咲かせるのに一役かっている。聞き取りした職員からは誰もが開口一番「人間関係の良さとここで働けて良かった」との感想が挙げられた。これも管理者・職員共々地道に実直に17年間みんなの幸せのため苦勞してきたことがやっと実り出した成果に違いない。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく、穏やかな生活が出来るよう、常にご本人やご家族の立場に立って支援するよう心掛けている	職員・利用者ともに、みんなが幸せになるためにどうすればよいかを、管理者は常に考え、職員にも問いかけている。常に進化する体制づくり、組織づくりに努め、管理者は職員が公平になるようにしており、ひいては利用者の立場に立った、寄り添った介護に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の年間行事への参加や、地域代表の方との普段のお付き合いを心掛けている。又、ご近所様から季節の野菜などを頂戴したりしながら、職員・入居者共々交流を大切にしている	近隣の方からタケノコなどの野菜を頂いたり、散歩の際には、挨拶を交わす関係が出来ている。元地域代表の方の家族や町内の方々との繋がりもコロナ禍ではあるが、できる限り繋ぐようにしている。コロナ前は運動会の見学や、清掃除にも参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者とスタッフによる地域行事への参加や、自由に施設見学ができる体制により、開かれた事業所づくりを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表の方やご家族、他事業所スタッフや地域包括支援センター等の意見や感想を取り入れ、サービス向上に努めている	運営推進会議は5月から対面で行っている。民生委員、家族代表、近隣の施設、包括支援センターの方が参加。利用者の近況報告、各種委員会、研修、訓練報告、熱中症対策などについて話し合わせ、活発な意見交換ができた。行事の際の利用者の様子がわかる写真や、mabi通信も配布された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者(ご家族)及び職員皆が幸せになれるよう、心あるサービスを提供するために、弱者の立場に立った問題点について相談解決出来るよう努めている	窓口は管理者で、電話での連絡が多い。小さなことでも正確に確認することを管理者は大切にしている。連絡は密にとっている。直近では、運営推進会議の合同開催や研修に関する質問や相談をした。消防署とは訓練の際に立ち会ってもらい、指導を受けるなど連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会の定期開催に加え、新入社員に対する入社時研修並びに既存社員に対する年2回の研修会を通し、事業所内での意識向上に努めている。	身体拘束委員会は3ヶ月に1度。内部研修では、事例を挙げて話し合いを行っている。新人研修時にも研修を行いレポートを提出している。スピーチロックに関しては、自分の段取りを優先させるのではなく、利用者目線で考えるように、看護師やユニットリーダーがその場で注意する関係ができています。	身体拘束に関してさらなる具体的な対処方法を検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時や入浴時等、体の異変を発見した場合には漏れなく報告するシステムを作っており、管理者と現場スタッフがその原因を追及することにより、不適切な対応が無かったか確認するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて各関係機関との連絡を密にとり、ご本人にとって何が最善であるかについて、複数の関係者による判断を心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に入居前の説明には時間を割いており、解約や制度改定時においても可能な限り自宅訪問(来所もあるが、ご家族によっては郵送する場合もある)し、懇切丁寧な説明を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の入居者の様子について、積極的にご家族へ電話連絡する事を心掛けており、いつでも誰でも何でも気軽に意見や要望を聞き入れる機会を設けている	家族とは面会や電話で連絡を取り、5月以降は運営推進会議も再会できた。コロナに関することや、季節ごとの利用者の服装など、施設側からだけでなく、家族からも頻りに連絡できる体制となっている。接客チェックシートは家族からの要望を拾い上げるために作ったもので、職員全員で情報共有ができ、問題回避に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットリーダーには、週に一度の業務週報提出を義務付けており、現場の問題点等に関する意見や提案が言える機会を設けている。又、それらについてその都度回答している	年2回の人事評価にて、自己評価を点数化して自分を見直す機会がある。管理者との個人面談では、意見が言える場となっている。日常でもユニットリーダーが、問題がある場合には即座に個別面談し、対応している。職員から居室の家具の配置についての提案があり、配置を変えたり補強したりして安全面が増した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度の人事評価制度を導入しており、個々の努力によって給与に反映する仕組みや、休暇の在り方など職員がリフレッシュできる仕組み作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な職員に対しては、必要な時期に必要な研修を受講できるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて関連事業所との合同研修会を実施するなど、職員同士が交流できる場を作るよう努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お世話」ではなく「寄り添う」という気持ちを忘れないよう取り組んでいる。又、お互いが「有難う」と言える関係を構築するよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活支援方法については、常にご家族と相談しながら共に答えを探し出すよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り知人の面会をご家族にも要望している。又、定期的に自宅への外出及び外泊なども合わせてお願いしている	面会は家族限定で、短時間、2人迄、1週間に1回とし、対面で行っている。廊下のソファでは、毎日のように空を眺め、利用者同士で会話を楽しんでもり、馴染みの場所となっている。冠婚葬祭では、家族と会えるようにしている。訪問散髪は2ヶ月に1回あり、馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人、我々健常者でも困難なことではあるが、可能な限り性格などを考慮した上で協調性を持って生活出来るよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される場合であっても、今後(病院や他施設、又は自宅)についていつでも相談に応じる旨を伝え、実際に退居後の相談に応じているケースもある		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人が何を望んでおられるのか、日々の言動や行動を観察し、過ごしやすくなるよう配慮している	職員は出勤したら、利用者の顔を見て挨拶するようにしている。フェイスシートを下に、日常の様子を細かく観察して、利用者の思いを汲み取ることに努めている。家族からも面会や電話で話を聞くようにしている。職員間の利用者に関する情報共有は、連絡ノートやユニットリーダーによる週報にて確認できている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅へ出向いて生活空間を拝見したり、過去の職業や人間関係等を参考に入居後の生活支援に役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の経過記録を作成し、主な出来事(面会や外出の有無、レクリエーションや機能訓練等の内容など)について全ての勤務者が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望と実際のご本人の日々の生活の様子を照らし合わせ、問題点を発見することによって現状に即した介護計画が作成出来ている	介護計画は、入居後、1、3、6ヶ月毎に見直しを行い、身体レベルに変化があったときはその都度対応している。計画作成担当者を中心に、協力医、看護師、職員の意見をカンファレンスをもとに作成している。長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の経過記録を作成し、情報の共有を行っている。又、その中からの気付いた問題点等については、今後の介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「臨機応変」をモットーに生活支援しているため、型にはめられたサービスではなく、常にその場に合った柔軟な対応が出来るよう工夫している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り他)に参加可能なレベルの入居者については、積極的に社会参加を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択(普段のかかりつけ医及び入院時)については、入居時にご家族に対して懇切丁寧に説明し、ご家族の納得がいくよう心掛けている。又、体調管理については普段からご家族と連絡を密にしている	内科の訪問診療は月2回。ほぼ24時間対応で、常駐の看護師がいるので安心できる体制となっている。利用者の体調変化については看護師が密に家族に連絡している。利用者全員が協力医に転医している。訪問歯科は月1回あり、口腔指導も受けている。他科への受診は近隣の医院へは職員が付き添っているが、それ以外は家族にお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調については、「いつもと何かが違う」という気づきを大切にできるよう徹底しており、異変が生じた場合には24時間看護師と連絡を取り合い、適切な処置を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関を中心に、普段からコミュニケーション作りを心掛けており、入居者が入院となった場合でも何でも相談できる関係を構築できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年月が経つとレベルも変わることが常にご家族には伝えており、実際に重度化(又はその予兆)となった場合であっても、当事業所としての役割を懇切丁寧に説明するよう心掛けている	看取りはしていない。重度化した場合については入居時に重要事項説明書で家族に確認をとり、終末期を迎えた際には、「重度化した場合における対応に係る指針」により、家族の意向を再度聞いている。協力医との連携は密でほぼ24時間対応、看護師が常駐しているので安心できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の生活の中で起こりうる事故や急変時の対応方法について、看護師を中心に定期的に研修を行っている。又、消防署員による心肺蘇生法を受けるなど努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、年2回の防災訓練を実施しており、地域代表の方を通して地域の方々にも協力をお願いをしている。又、消防の方を招いて講習等を行うよう努めている	年2回、防災訓練は昼夜想定で利用者も参加している。避難場所は同系列の施設、または垂直避難を想定している。BCPに準じたシミュレーションの訓練に力を入れている。ハザードマップや緊急連絡網は事務所に掲示している。消防署の指導により、心肺蘇生の方法や消火器の使い方も学んだ。	備蓄についてさらに検討実施されることを期待します。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「高齢者への尊厳」については、当事業所として一番大切にしているところであり、言葉の選択や声の質及びトーンについても、時と場所を選んで使い分けるよう努めている	居室の表札はなく、扉で変化をつけ、わかるようにしている。呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。虐待早期発見チェックシートは職員編と、利用者編を作り、半年に1回チェックしている。連絡ノートや口頭で、利用者への言葉遣いについては、管理者が厳しく丁寧に指導するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には食事の時間以外は自由に自己決定できるよう支援している。但し、共同生活であるため、他者に対して迷惑行為となる内容であればご本人に相談するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の24時間と職員の24時間は異なるということを職員に徹底し、急ぐことなくご本人のペースに合わせた支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分によって衣類を選択できるよう配慮したり、女性の方にはお化粧品をする機会を設けるなど工夫している。又、原則として起床時と就寝時には更衣して頂き、個々の身だしなみに注意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成時、入居者の希望も反映できるよう心掛けている。又、お手伝いが可能な方については、簡単な準備や配膳・下膳及び食器洗い等をお願いしている	3食手作りで、近隣の方から頂いた筍が食卓に出された。流しそうめんやクリスマスにはチキンライスが提供され、誕生日には希望を聞き、バラ寿司や赤飯を出している。手作りおやつは月2回あり、お汁粉、ソーダフロート、かき氷等が提供された。お正月には、お餅つきをして楽しめた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量(主食・副食・水分量)を記録に残し、異変の早期発見に努めている。又、病气(糖尿病等)による摂取制限等についても、医師や看護師の指示を受けて実践している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯又は義歯によって口腔ケア方法も異なるため、個々の支援方法を一覧にして徹底している。又、義歯については定期的な洗浄(洗浄剤使用)を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	原則として日中は共用トイレまで往復するよう心掛けている。又、入居者によっては定期的な声掛けにより、自発的な排泄の実践に努めている	排泄チェックシートの活用により、失敗が減り、改善された例がある。自発的な排泄ができるように職員が気をつけて声掛けをして、夜間もできるだけ自分でトイレに行くように誘導している。失敗時には、「ちょっとこちらへ」とさりげなく声掛けをして、対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘の方については、常に医師と相談しながら飲食物や一定量の運動を取り入れるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理矢理とならぬよう、入浴希望の有無については、必ずご本人に確認して行っている。又、拒否が強い場合には清拭等に切り替えるなど工夫している	入浴は基本的には週2回。浴槽には利用者の約半数が入ることができ、シャワー浴や清拭で清潔に保つようになっている。入浴を嫌がる方には、言葉掛けを工夫して無理強いをしないようになっている。個々の利用者によって水位を変え安全面に気を付けている。菖蒲湯やゆず湯の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間、又は昼寝に至るまで、ご本人の体調に応じて職員が誘導している。又、ご本人の生活リズムを崩さぬよう配慮しながら管理している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携しながら看護師が中心となって管理している。又、ローテーション勤務であっても全ての職員が把握できるようチェック体制を設けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動は、強制的にならぬようご本人の意思を尊重して取り組んでいる。又、個別に合った楽しみごとを探し出すよう日々努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内に閉じこもらないよう、戸外への散歩は日常的に取り入れている。又、食材の買い出し時には、可能な限り入居者と同行するよう努めている	近隣への散歩や近所の方との挨拶はできている。外出に代わるレクリエーション活動の中庭で行い、気分転換となっている。屋内での行事活動を増やし、納涼祭や流しそうめん、中庭での食事会など工夫をしている。ホワイトボードに誕生日や行事の際には職員が絵を描き、楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所に一括管理しているが、希望に応じて一定のお小遣いをご本人が所持することにも配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じた手紙については、職員と一緒に作成するなど取り組んでいる。又、電話に関しては帰宅願望に配慮しながら、可能な限りご本人やご家族の希望を優先するよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての空間について、可能な限り自然体を大切に心掛けている。又、季節に応じた飾り付けなど、居心地のよい空間となるよう工夫している	壁面には、行事の際の写真が飾られている。朝食後は百歳体操など、レクリエーション活動を行い、散歩やムーヴサイクル、脳トレ、オセロやパズルなど各自のレクリエーション活動を楽しんでいる様子が見られた。廊下のソファが馴染みの場所となり、のんびりと空を見上げ寛ぐ姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一か所集中ではなく、複数の居場所に複数の小集団が形成されることをイメージした空間となっており、気分によって居場所が変えられるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の家庭訪問にて、ご本人の馴染みの備品及び物品についてご家族に確認し、入居時には可能な限り持ち込んで頂くよう配慮している	備え付けはエアコン、換気扇、ベッド、カーテン、ハンガーレール。ラジオやテレビを持ち込んで楽しんでいる。ご主人が描かれた絵を飾ったり、仏壇を持ち込んだりしている。毎朝、職員と一緒に利用者もモップ掛けを手伝い、会話を楽しみながら清掃を行っている。入居前の家庭訪問で、情報を得て、施設内が馴染みの場所となるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に頻繁に使用する場所については、入居者独りでも安全に使用できるよう配慮している。又、日々の業務においてリスク管理(危険度のチェック)を徹底している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない